

## 福井大学学術交流協定校への派遣留学(交換留学)月例報告書 (11 月分)

留学先大学: Chulalongkorn University

氏名: 井口 健

こんにちは、チュラロンコン大学に留学中の井口です。今月はタイにも冬がきたらしく、3、4日くらい涼しい日が続きました。(涼しいと言っても半袖短パンで過ごせる程度) また、12月の前半までファイナルの期間で11月は二つのプレゼンとテストがあり、今は最終レポート書いている最中です。それと同時に自分の留学生生活を振り返り忙殺されそうです。

### <地獄のサメット島トリップ>

バンコクからバスと船で約4時間、白い砂浜と透き通った海で有名なリゾート地サメット島という島があります。たまには海でも見ながらゆっくりするかということになり、今月の初めに友達3人で1泊2日の旅行に行きました。予約したバスがハズレで通常の1.5倍の時間がかかりましたが、そんなトラブルも気にせず道中もワイワイ楽しく過ごしました。15時頃に島に着き、1泊2日で時間は限られているのですぐにホテルにチェックインをして海へくり出しました。日が沈む頃まで遊び、夕食は砂浜に面しているレストランで食べました。そのあとは名物のファイヤーダンスショーを見たり、バーに行って語ったりとゆったりとした時間を過ごすことができました。

そして次の日、2時半頃に寝たにも関わらず6時半に目が覚め、お腹から胸にかけて強烈な違和感があり、しばらくすると嘔吐と下痢に襲われました。「これが食中毒...」苦しさに意識が朦朧とする中、周りの友達がかかっても自分だけは今まで生き残ってきたのになんでこんな島で食中毒に当たってしまうんだとどこに向けていいのか分からない憤りが湧いてきました。なんとか耐え抜いて、9時頃に島の港近くにある病院へ行き診察を受けました。「これは middle level の食中毒だね」と優しいお医者さんに言われましたが、正直その時は辛すぎてどのレベルでもいいから早くこの苦しきから解放してくれという感じだったので覚えています。薬だけにするか腰に注射も打つかと聞かれましたが、島で腰に注射とか怖すぎと思って薬だけを選択しました。結局、友達も旅行を二泊三日に延長してくれて、その日は一日ベッドで寝ていましたが容体はあまり回復せず体の中の水分がほとんどなくなり、夜は特に苦しかったのを覚えています。それでも次の日の朝はなんとか動けるようになり、意を決して12時にホテルを出

発し帰路に着きました。港につくとまだ船がきておらず、病院のベッドを借りて待たせてもらうことにしました。その様子を見てお医者さんが点滴を打った方が良さそうということで、待ち時間で点滴を打ちました。おそらく正常な精神状態だったら、点滴というオプションがあるなら昨日のうちに教えてよ！と思いましたがその時は長い道のりが待っていたので藁にもすがる思いでした。一本遅らせて船に乗り 20 分くらい揺られた果てになんとかタイ本土に上陸しました。そこからバス乗り場を探しチケットを買って、40 分くらい遅れてきたバスに乗りようやくバンコクまでの道りにつくことができました。結局寮に到着したのは夜の 9 時半頃で、9 時間弱あの苦しみに耐え抜き寮が目の前に見えた瞬間は留学に来て初めて涙が出そうになりました。

このあと一日学校を休み安静にしていたら回復してきたのですが、二日後にまた悪化したのでバンコクで一番高級なホテルのような病院に行き薬をもらってようやく復活しました。異国の地のさらにバンコクまで帰るのに 9 時間もかかった島で食中毒になるのは、間違いなく今年一番辛い経験で留學生活だけでなく自分の人生についても振り返させられる経験でした。とにかく気持ち悪くてだるくて動けなかったとき、元気だった時にやりたかったけど始めなかったこと、会いたかったけど連絡してなかった人、食べたかったけど食べなかった物、観たかったけど観てない映画などが次々と頭に浮かんできて、健康であることがどれだけ幸せなことかを理解せずに時間を無駄にしてきたことを後悔しました。それと同時に、元気になったらやりたいことをやろうという思いが自分の気持ちを少し前に向けてくれたような気がします。そして、3 日間の旅行の後半 2 日をゼリー 1 個しか食べられなかった体験から一つの考えにたどり着きました。それは“食と健康が第一！”ということです。今まではぼくも男子として多少モテたいとか良い成績とって家族に褒められたいなど思っていたのですが、食べることができなかつたり健康を損なってしまつたりしたら自分がやりたいことなんて一つもできないなと気づいてしまったのです。そして「完璧じゃないとダメだ」「こうじゃないと意味がないと」自分で自分に制約をかけ精神的に追い詰めてしまうこともありましたが、「美味しいものが食べられて健康ならそれでいいじゃん！」と思うようになり、食中毒と通して自分の幸せのハードルが下がり、当たり前なのに感謝を抱くようになりました。そうは言っても、ただ海辺のレストランで食事を楽しんだだけなのにあれだけ苦しい思いをさせられたぼくの怒りはなかなか治らず、その矛先はサメット島からタイという国へ、そして東南アジアという地域へ向き、年末の休みはどこで過ごすかと迷っていましたが、こんなとこ居られるか！と思いき勢いでヨーロッパへの航空券を買い、東南アジアに留學しながら年末のヨーロッパ旅行が決定いたしました。

## <施設紹介>

今月はマレーシアから安江が来たり、日本から福大 girls が来たり、ボランティアの友達が沖縄から来たりと色んな人に会ったのですが、このままだと留学情報が何もないので、ここからはお気に入りの大学の施設と大学内の移動について紹介します。

まず一つ目は大学のスポーツ施設です。寮から歩いて5分のところにあり、平日は7時から20時まで、土日は9時から18時までチュラの学生なら無料で利用ができます。ジムはもちろんヨガやダンスのスペース、バドミントンやムエタイ、バスケットボール用の体育館、そして50m プールもあります。食中毒の件からもっと身体を鍛えて健康になろうと思い、今は週3で通っています。目標は日本に帰るまでに体重を8キロ増やすことです。



二つ目は図書館です。この写真は大学で一番古く一番有名な建物で、教授のオフィスや文学部の図書館があります。Engineering や Political Science の図書館は最近できたばかりで新しいのですが、文学部の図書館は有名ではありますがボロくてフロアによってはクーラーもないので学生には人気がありません。しかし、ぼくは他の図書館はクーラーが強すぎて寒いので、いつもこの図書館に来て人がいないので扇風機を独占して勉強しています。窓から入る自然の光と扇風機の風で勉強をすると、夏休みに実家で課題をやっていた高校生や中学生の頃を思い出して感慨深くなります。



最後は食堂です。週2くらいでしか利用しませんがものすごく安い価格でご飯が食べられるのでコスパは良いです。写真はもち米の上にチキンを乗せた料理で、これで大体130円くらいです。またタイティーもぼくのお気に入りです、60円くらいで飲めます。(半分くらい氷ですが。)



## <移動>

大学内を無料のシャトルバスが走り回っています。学部棟まで寮から歩いて大体15、6分かかり、灼熱の中歩きたくもないのでバスを使って学校に行くことが多いです。

